

気仙沼の食材アピール

復興 キッチン ボランティアで被災地支援



横浜市で開かれた復興キッチン

被災地から仕入れた食材を調理して消費者の購買につなげ、復興を手助けしようというボランティア活動が横浜市で行われている。先日は気仙沼産のカツオやサンマを使って開かれ、早速食材の購入先を確認する参加者もあり、被災地に足を運ぶことができない消費者と被災地とを結ぶきっかけづくりの場となっている。

企画したのは、被災地の支援活動を行っている神奈川県内の有志でつくる「かながわ311ネットワーク」。

震災によって農水産物の販路が狭まる中、食材を通じて被災地と消費地をつなげ、産業復興を支援しようと、「復興キッチン」と題して、横浜市内で定期的に開催している。

気仙沼の食材をテーマに開かれた今回は、神奈川、東京から約60人が参加。事前にスタンプが現地で収集した情報をもとに、気仙沼から取り寄せたカツ

ムはとても大きくて驚いた。これから水を無駄にしないよう大切にしたい」と話した。

オのたたきやカルパッチョ、サンマのハンバーグとつみれ汁、ワカメと茶豆の酢の物など、調理ボランティアが作ったメニューを試算した。

気仙沼を訪れたことがない人が多く、参加者は素材の良さを実感。鮮魚などの食材をはじめ、水産加工品、地酒、菓子類など、会場では気仙沼の商品情報も提供し、早速、連絡先を確認する人もいた。

同団体専務理事の谷本恵子さんは「今回は障害者の方の参加もあった。なかなか現地に行けない人が少しでも復興に携われる機会になれば、水産業の復興状況など、報道が少なく伝わらない情報を提供する場にもしたい」と話している。

音楽会などにも出演している吉武大地さんから音楽仲間4人が、「赤とんぼ」「ソーラン節」など美しい歌声を披露する。

入場無料。会場には駐車場がなく、公共交通機関の利用を呼び掛けている。問い合わせはネットワークオレンジ（電話25・7515）まで。

「わ」で奏でる
応援コンサート
気仙沼

東日本大震災への全国からの支援の輪を広げ、被災者と絆を深めようという、「わ」で奏でる「東日本応援コンサート」 in 気仙沼（気仙沼ライオンスク

水の大切さ学ぶ

唐桑小 4年生が水源地見学

気仙沼市立唐桑小学

校（熊谷正子校長）のき、唐桑地域の住民が

4年生19人が24日、唐使用する生活用水10日、

小野寺皇介君は「ダ



青果市況

24日

気仙沼流通市場